



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月2日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社 上場取引所 JQ  
 コード番号 2222 URL http://www.okashinet.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛 (TEL) 0859 (22) 7456  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部 部長 (氏名) 松本 真司  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	4,450	4.8	226	13.3	239	14.5	86	△1.1
22年3月期第1四半期	4,245	7.6	200	39.6	209	52.3	87	18.8

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第1四半期	8.38	—
22年3月期第1四半期	16.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第1四半期	12,600	5,296	42.0	510.54
22年3月期	12,635	5,475	43.3	1,055.66

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 5,296百万円 22年3月期 5,475百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	50.00	50.00
23年3月期	—	—	—	—	—
23年3月期（予想）	—	0.00	—	25.00	25.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	9,830	6.7	933	17.6	950	17.2	490	12.2	47.24
通期	19,950	6.6	1,980	11.4	2,000	10.1	1,090	11.0	105.07

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] 4 ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

新規 ー社 (社名ー)、除外 ー社 (社名ー)

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：無

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	10,373,840株	22年3月期	5,186,920株
----------	-------------	--------	------------

② 期末自己株式数

23年3月期1Q	190株	22年3月期	95株
----------	------	--------	-----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年3月期1Q	10,373,650株	22年3月期1Q	5,186,920株
----------	-------------	----------	------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 平成22年4月1日付をもって、普通株式1株につき2株の割合で、株式分割を実施しております。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、[添付資料] 3 ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間における経営環境は、個人消費は持ち直しの動きがあるものの、失業率が高水準にあるなど、依然として厳しい環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、地域性と専門店性の追求、「ものづくり力」と「営業力」のレベルアップに努め、他社との差別化を図ってまいりました。また、重点施策として、「熱狂的ファンづくり」の徹底実践、地域限定有店舗の通信販売の強化、高付加価値製品の創出とお客様への伝え方の進化、コンプライアンス強化と全員参画型経営の推進をテーマにグループ各社は、期初に掲げた事業施策を遂行いたしております。

その結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は、主に販促・広告宣伝活動の積極展開が奏功し、4,450百万円（前年同期比4.8%増）、営業利益は226百万円（前年同期比13.3%増）、経常利益は239百万円（前年同期比14.5%増）となり、売上面及び利益面ともに前年同期を上回りました。

四半期純利益につきましては、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び同適用指針（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）の適用に伴い、特別損失に49百万円を計上したことなどにより、86百万円（前年同期比1.1%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(注) 当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び同適用指針（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用し、報告セグメントの業績を記載いたしております。これに伴い、各セグメントの前年同期比較に関する情報は、記載いたしておりません。

#### ① ケイシイシイ

株式会社ケイシイシイは、「ルタオ」通信販売の新規顧客獲得に向け、前期に引続き、新聞広告、テレビCMの全国放映などのプロモーション活動を積極的に展開いたしました。新商品では、12周年記念スイーツとして「ヴェネチア・ランデヴー」を発売し、販売強化に努めました。道内店舗では、5月にルタオ大丸札幌店の全面改装を実施いたしました。その結果、売上高は1,671百万円となり、営業利益は151百万円となりました。

#### ② 寿製菓

寿製菓株式会社は、山陰地区の「お菓子の壽城」が団体客増加などにより堅調に推移いたしました。また、販売子会社において関西地区の好調などによりグループ向けの内部売上高が増加いたしました。その結果、売上高は1,543百万円となり、営業利益は57百万円となりました。

#### ③ 販売子会社(11社)

販売子会社は、交通機関市場を中心に、主力製品の専用什器展開、新製品の投入に努めました。地域では、「コンディトライ神戸」ブランドを擁する関西地区が、新商品「神戸バニラフロマージュ」の販売強化、主力商品「神戸クリームチーズケーキ」モンドセレクション金賞受賞PR展開などにより好調に推移いたしました。その結果、売上高は937百万円となり、営業利益は12百万円となりました。

#### ④ 九十九島グループ

株式会社九十九島グループは、焼き芋まんじゅう「龍馬伝」の販売強化、主力製品「九十九島せんべい」と「はなかご」のモンドセレクション最高金賞W受賞のPR展開の強化に努めました。その結果、売上高は679百万円となり、営業利益は11百万円となりました。

#### ⑤ 但馬寿

株式会社但馬寿は、遊月亭の黒豆茶が、テレビで紹介されたことなどにより認知度が高まり、通信販売が好調に推移いたしました。その結果、売上高は243百万円となり、営業利益は21百万円となりました。

#### ⑥ つきじちとせ

株式会社つきじちとせは、主力商品「かりんとうかりんとせ」の販売強化、通信販売に注力いたしました。その結果、売上高は153百万円となり、営業損失は18百万円となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ35百万円減少し12,600百万円となりました。流動資産は5,139百万円となり、255百万円減少いたしました。主な要因は、季節変動要因による受取手形及び売掛金の減少(185百万円)、現金及び預金の減少(251百万円)などです。固定資産は、7,461百万円となり、219百万円増加いたしました。主な要因は、有形固定資産において、店舗用地取得などの設備投資(340百万円)実施によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ143百万円増加し7,304百万円となりました。流動負債は5,287百万円となり249百万円増加いたしました。主な要因は、賞与引当金の減少(149百万円)、確定納付による未払法人税等の減少(388百万円)などの減少要因と、1年内返済予定の長期借入金の増加(254百万円)、賞与関連の未払費用などによるその他流動負債の増加(428百万円)による増加要因などです。固定負債は2,016百万円となり105百万円減少いたしました。主な要因は、長期借入金の減少(186百万円)などです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ179百万円減少し5,296百万円となりました。主な要因は、四半期純利益(86百万円)の計上による増加、配当金の支払い(259百万円)による減少などです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.3ポイント減少し42.0%となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期のキャッシュ・フローは前連結会計年度末に比べ248百万円減少し、当第1四半期末の現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、1,710百万円(前年同期比3.8%増)となりました。

当第1四半期末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、156百万円(前年同期比59.4%減)となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益を186百万円、減価償却費を124百万円計上するとともに、売上債権の減少185百万円、その他の増加364百万円などの増加要因があった一方、賞与引当金の減少149百万円、法人税等の支払492百万円などの減少要因によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、357百万円(前年同期は、14百万円の資金使用)となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出347百万円によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、47百万円(前年同期比84.5%減)となりました。

主な要因は、長期借入金の収入が200百万円あった一方で、配当金の支払い259百万円によるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績動向を踏まえ、本資料発表日現在におきましては、第2四半期連結累計期間及び通期ともに前回公表数字(平成22年5月13日付「平成22年3月期決算短信」)からの変更はありません。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### 税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。これにより営業利益、経常利益がそれぞれ779千円減少し、税金等調整前四半期純利益が50,136千円減少しております。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,257,239	2,508,922
受取手形及び売掛金	1,686,401	1,872,175
商品及び製品	446,556	351,996
仕掛品	27,030	28,116
原材料及び貯蔵品	322,919	310,990
その他	416,985	328,410
貸倒引当金	△18,093	△6,255
流動資産合計	5,139,037	5,394,354
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,089,811	3,084,294
機械装置及び運搬具(純額)	393,244	397,233
工具、器具及び備品(純額)	211,071	191,578
土地	2,571,639	2,344,340
リース資産(純額)	82,408	69,256
建設仮勘定	—	27,292
有形固定資産合計	6,348,173	6,113,993
無形固定資産	84,293	82,527
投資その他の資産		
その他	1,082,003	1,098,180
貸倒引当金	△53,133	△53,133
投資その他の資産合計	1,028,870	1,045,047
固定資産合計	7,461,336	7,241,567
資産合計	12,600,373	12,635,921
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	635,027	680,268
短期借入金	2,150,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	1,116,334	862,312
未払法人税等	105,554	494,265
賞与引当金	158,553	307,676
その他	1,122,284	693,583
流動負債合計	5,287,752	5,038,104
固定負債		
長期借入金	885,850	1,072,629
退職給付引当金	704,469	685,302
役員退職慰労引当金	114,137	111,971
その他	312,019	252,373
固定負債合計	2,016,475	2,122,275
負債合計	7,304,227	7,160,379

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	2,750,078	2,922,448
自己株式	△187	△187
株主資本合計	5,290,852	5,463,222
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,294	12,320
評価・換算差額等合計	5,294	12,320
純資産合計	5,296,146	5,475,542
負債純資産合計	12,600,373	12,635,921

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	4,245,227	4,450,870
売上原価	2,211,274	2,277,179
売上総利益	2,033,953	2,173,691
販売費及び一般管理費	1,833,864	1,947,003
営業利益	200,089	226,688
営業外収益		
受取利息	430	144
受取配当金	1,178	1,219
受取地代家賃	19,949	19,945
その他	4,773	5,997
営業外収益合計	26,330	27,305
営業外費用		
支払利息	16,412	13,404
その他	561	771
営業外費用合計	16,973	14,175
経常利益	209,446	239,818
特別利益		
貸倒引当金戻入額	555	—
特別利益合計	555	—
特別損失		
固定資産売却損	7	36
固定資産除却損	2,989	4,082
役員退職慰労金	20,450	—
減損損失	18,669	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	49,357
特別損失合計	42,115	53,475
税金等調整前四半期純利益	167,886	186,343
法人税等	79,971	99,372
少数株主損益調整前四半期純利益	—	86,971
四半期純利益	87,915	86,971

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	167,886	186,343
減価償却費	123,315	124,584
減損損失	18,669	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	49,357
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△691	11,838
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△108,093	△149,123
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	8,581	19,167
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△177,624	2,166
受取利息及び受取配当金	△1,608	△1,363
支払利息	16,412	13,404
固定資産売却損益 (△は益)	7	36
固定資産除却損	2,989	4,082
売上債権の増減額 (△は増加)	292,564	185,774
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△27,743	△105,403
仕入債務の増減額 (△は減少)	△84,855	△45,241
その他	584,841	364,042
小計	814,650	659,663
利息及び配当金の受取額	1,203	1,230
利息の支払額	△14,565	△12,281
法人税等の支払額	△416,616	△492,422
営業活動によるキャッシュ・フロー	384,672	156,190
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△3,450	△1,400
定期預金の払戻による収入	11,200	4,400
有形固定資産の取得による支出	△18,402	△347,210
有形固定資産の売却による収入	42	29
無形固定資産の取得による支出	—	△5,696
貸付けによる支出	△150	△1,000
投資有価証券の取得による支出	△294	△300
貸付金の回収による収入	60	80
その他	△3,219	△6,775
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,213	△357,872
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	150,000
長期借入れによる収入	250,000	200,000
長期借入金の返済による支出	△341,757	△132,757
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△3,035	△4,903
配当金の支払額	△207,477	△259,341
財務活動によるキャッシュ・フロー	△302,269	△47,001
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	68,190	△248,683
現金及び現金同等物の期首残高	1,579,379	1,958,822
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,647,569	1,710,139

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

**【事業の種類別セグメント情報】**

前第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年6月30日）

当社の企業集団は、菓子製品の製造及び販売を主な事業としており、1セグメントの売上高、営業利益及び資産の金額がいずれも合計の90%超となっております。

また、当該セグメント以外に開示基準に該当するセグメントがありません。このため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

**【所在地別セグメント情報】**

前第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年6月30日）

本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

**【海外売上高】**

前第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年6月30日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、菓子製品の製造及び販売を主な事業としており、純粋持株会社である当社は、グループ全体の経営方針、中期的な経営計画の策定等、意思決定の機能を有し、各子会社はその基本方針に基づいて各々独立した経営単位として、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは報告セグメントを各子会社ごとに分類しております。

なお、子会社の内、販売子会社11社をマネジメントアプローチの集約基準に基づき、1つの報告セグメントとして集約しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ケイシイ イ	寿製菓	販売子会 社(11社)	九十九島 グループ	但馬寿	つきじち とせ	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	1,561,551	1,104,772	937,753	621,113	88,470	135,347	4,449,006	1,864	4,450,870	—	4,450,870
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	110,319	438,619	184	58,715	155,366	18,339	781,542	—	781,542	△ 781,542	—
計	1,671,870	1,543,391	937,937	679,828	243,836	153,686	5,230,548	1,864	5,232,412	△ 781,542	4,450,870
セグメント利益 (△は損失)	151,847	57,909	12,381	11,790	21,221	△ 18,116	237,032	862	237,894	△ 11,206	226,688

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれております。

2. セグメント利益（△は損失）の調整額△11,206千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額98,789千円、セグメント間取引消去額2,897千円、たな卸資産の調整額△3,580千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△109,312千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益（△は損失）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。